

実績概要 (ホームページ掲載用)

研究又は活動のテーマ	地震災害と災害復旧に関する学習
団体名	山梨県立青洲高等学校
代表者	宮坂 雄太

(目的) 日本は地震大国であり、南海トラフ地震が今後30年間に発生する確率は70%を超えていると言われている。山梨県も災害の例外ではなく、富士山を抱える中で震度6強の想定がなされている。土木技術者として社会に出ていく高校生に対して、地震の恐ろしさを授業で聞くだけでなく、現地へ赴き、見て、触れて、体験することで再確認するとともに、命を守るインフラを造っていく使命と、政府の国土強靱化計画についても学習し、防災に関する学びや備えについて土木技術者として考えさせる機会とする。

また、東日本大震災より11年が経ち、ニュースで取り上げられることがほとんどなくなってしまった震災被害の復旧や街の復興についても、現状どこまで進んでいるのかを学習することで、土木技術者の必要性や有用性を再認識させ、建設業への入職促進の機会とする。

(概要) 東日本大震災で、特に甚大な被害を受けた宮城県石巻、気仙沼を訪れ、震災の恐ろしさを学び、日常がいかにか脆いものかを被災者の語り部の話を聴きながら震災遺構を見学し、現地で体感することによりしっかり考える機会とする。また、遺構を巡る道中において、震災前の街並みと復興を遂げた後の街並みを比較しながらインフラ整備による命と財産を守る取り組みを実際に見学することにより、防災や減災に関する土木構造物を造っていく土木技術者の必要性や使命について学ぶ。

①石巻市の石巻南浜津波復興記念公園において、『MEET門脇』の語り部と合流。南浜町の震災前・後の街並みの変化や、高盛土道路の概要、居住可能地域と非居住地域の住み分け、津波避難ビルの概要、震災遺構の門脇小学校の被災状況について、避難における心構え等を学んだ。

②大川小学校へ移動し、大川震災伝承館の語り部と合流。伝承館の展示見学、釜谷地区の津波の被害や大川小学校の被災状況、地域住民や小学校教員の避難行動の在り方、想定内の出来事を越えた時の対処法について学んだ。

③宿舎までの移動道中に、賛否両論のあった防潮堤や高盛土道路、気仙沼線BRTを車中より見学。

④南三陸防災庁舎跡を見学。庁舎前で実際の津波到達高さを実感するとともに、復興祈念公園周辺の防潮堤、河川堤防の嵩上げの様子を学んだ。

⑤気仙沼市東日本震災遺構伝承館において語り部と合流。震災直後の映像や津波到達時の映像視聴後、語り部と共に被災した向洋高校内部の見学をし、津波到達高さ、避難場所、防潮堤の在り方等を学んだ。